

国際認知度向上をめざした
合成メタンの「e-methane（イーメタン）」への呼称統一について

2022年11月22日
一般社団法人 日本ガス協会

一般社団法人 日本ガス協会（以下、「日本ガス協会」）は、「カーボンニュートラルチャレンジ2050」（2020年公表）、「カーボンニュートラル2050アクションプラン」（2021年公表）に基づき、カーボンニュートラルを実現するための取組みを進めております。

実現に向けた有力な手段として位置付けるメタネーションにより製造された「合成メタン」を国内外のより多くの方々に知っていただくため、「e-methane（イーメタン）」の呼称に統一していくことを、11月22日に開催された「メタネーション推進官民協議会」にて提案し、合意をいただきました。

今後は、都市ガス業界のみならずメタネーションに取り組む幅広い関係者にe-methaneの呼称およびロゴマークを使用いただくことで、合成メタンの国際認知度向上に貢献してまいります。

【ロゴマーク】

The logo for e-methane features the text "e-methane" in a blue, sans-serif font. The letter "h" is stylized, with a green circular element integrated into its right side, resembling a flame or a drop.

【e-methaneの定義】

グリーン水素などの非化石エネルギー源を原料として製造された合成メタンに対して用いる呼称とする。

【eに込めた想い】

① S+3Eの実現

合成メタンは、エネルギー政策を進める上での原則であるS+3Eを実現するエネルギーであり、社会実装に取り組んでまいります。

エネルギー政策を進める上での大原則としての、安全性（Safety）を前提とした上で、エネルギーの安定供給（Energy Security）を第一とし、経済効率性の向上（Economic Efficiency）による低コストでのエネルギー供給を実現し、同時に、環境への適合（Environment）を図る。

出典：第6次エネルギー基本計画

② 再生可能エネルギーの活用によるカーボンニュートラルの実現

トランジション期においては、ブルー水素等も活用し、合成メタン（e-methane）の普及拡大を図り、将来的には再生可能エネルギー由来の電気（electro）から製造されたグリーン水素を活用することで、カーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

(参考)

メタネーション推進官民協議会メンバー

供給側：**ガス**（日本ガス協会、東京ガス、大阪ガス、東邦ガス、INPEX）、
電力（東京電力、JERA、関西電力）
エンジニアリング（IHI、日立造船、日揮、千代田化工、三菱重工業）

需要側：**鉄**（日本製鉄、JFEスチール）、**自動車**（デンソー、アイシン）、
セメント（三菱マテリアル）

サプライチェーン：**船**（商船三井、日本郵船）、**商社**（住友商事、三菱商事、シェルジャパン）

研究機関：日本エネルギー経済研究所、CCR研究会/産総研、NEDO

金融：日本政策投資銀行、JOGMEC

学識者：山内弘隆(一橋大学名誉教授)、秋元圭吾(RITE主席研究員)、
橋川武郎(国際大学副学長) ※いずれも総合エネ調基本政策分科会委員

政府：経済産業省、資源エネルギー庁、国土交通省、環境省

出典：第6回クリーンエネルギー戦略検討合同会合 資料1より抜粋

以上

担当：広報室
TEL：03-3502-0112